

# けんぽく

第2号[平成26年1月号]

県北地方の「食」と「ふるさと」新生運動に関する情報をお知らせします。



平成26年1月31日発行  
**「食」と「ふるさと」  
新生運動ニュース**

編集・発行 福島県県北農林事務所

## ◆「ふくしま産業復興投資促進特区(農林水産業特区)」が認定されました！

平成25年11月18日に管内8市町村と県が共同で変更申請を行っていた本特区について、平成25年11月29日付けで認定されました。

今後、各市町村において、事業者からの指定申請受付が開始されます。詳しいことは、各市町村の農林業担当課にお問い合わせください。

## 「農林水産業特区」について

### 税制優遇措置の内容

- ① **新規立地促進税制(復興特区法第40条)**  
新規立地新設企業の法人税を実質5年間無税
  - ② **事業用設備等に係る特別償却等(同法第37条)**  
機械・装置、建物等の投資に係る特別償却・税額控除
  - ③ **法人税等の特別控除(同法第38条)**  
被災被雇用者の給与等支給額の10%を税額控除
  - ④ **研究開発税制の特例等(同法第39条)**  
開発研究用減価償却資産の即時償却+12%税額控除
  - ⑤ **地方税の課税免除又は不均一課税に伴う措置(同法第43条)**  
施設・設備の新・増設による事業税・不動産取得税・固定資産税の課税免除又は不均一課税を行った場合の減収補填  
※ ⑤については、上記①、②、④の指定を受けた場合に限りです。
- ①～③は選択適用



(企画部)

## ◆あんぽ柿の全量検査が順調な売れ行きにつながっています！

伊達地域の冬の特産品あんぽ柿は、伊達地域3市町に合計12台の検査機を配置し、製品全量を検査して



スクリーニングレベル以下は“○”表示

出荷しています。検査は、蜂屋 230g入り、平核無 200g入りのトレーを8個並べた平箱単位に行われています。結果はトレーごとに判定され、スクリーニングレベル(50ベクレル/kg)を超えたトレーが含まれる箱は廃棄処分されます。今年1月26日までの検査実績では、合計702,208トレーが検査済みで、その内の不合格となったトレー数は0.1%にとどまっています。

あんぽ柿の売れ行きは好調で、市場販売単価は、JA伊達みらいの1月25日までの販売実績で蜂屋 1,555円/kg、平核無 1,541円/kgと例年より高値傾向です。これは、安心・安全をしっかりと担保したあんぽ柿の加工及び出荷体制が評価された結果と考えられます。

あんぽ柿原料の検査では、年々確実に放射性物質の濃度が低下してきており、来年は加工再開モデル地区の拡大が見込まれます。これに伴い、非破壊検査機が追加配備される計画です。一方、柿の放射性物質濃度の一層の低減対策が必要な地域もあり、試験研究機関も含めた中で、対応策の議論が進められています。

(伊達農業普及所)

## ◆「天のつぶ」が「おいしいお米コンクール」で見事1位に！～JAみちのく安達が開催～

平成25年12月6日(金)、JAみちのく安達本店において「おいしいお米コンクール」最終審査が開催され、本宮市産の「天のつぶ」が1位に輝きました。

当日は応募のあった50点から第1次審査、第2次審査を経て最終審査に残った「コシヒカリ」「天のつぶ」の5点について、厳正な食味検査を行いました。

審査はJA全農福島、JAパールライン福島株式会社、生活協同組合コープふくしま、安達農業普及所及びJAみちの

く安達等の職員が担当しました。

「天のつぶ」は、福島県が15年をかけて開発した品種であり、平成22年に県の奨励品種となりました。特徴は①「コシヒカリ」



審査風景

や「ひとめぼれ」に匹敵する美味しさ、②食べ応えのある、しっかりとした食感、③炊きあがりの香り、光沢が良く、粒がそろったおいしいお米です。

審査員からは、「天のつぶ」はしっかりとした食感で粘りがあり、大変おいしいと高評価を得ました。

入選した上位10点は、JAみちのく安達「極上米」として、「コープふくしまあだたら店」及びJA直売所で販売する予定です。



上位入賞者

(安達農業普及所)

## ◆県北地方有害鳥獣被害防止対策会議を開催しました！

近年、鳥獣による農作物被害が、山間部を中心に大きな問題となっています。

県北地方は、阿武隈・奥羽の両山系に囲まれ、主要な有害鳥獣であるサル、クマ、イノシシすべてが被害を及ぼす上、果樹など園芸作物の栽培も盛んであることから、県内で最も被害金額が大きい地域となっています。

県北農林事務所では、11月14日(木)にJA新ふくしま本店会議室で、市町村の担当職員など管内の関係者を参集し、対策会議を開催しました。

被害対策としてはワナによる捕獲、銃による殺処分、柵の設置による進入防止などがありますが、個別の対策では効果に限界がある上、地域の条件も異なるため、なかなか

結果が出ないのが実情です。

会議では、各地方での状況や課題、取組状況などの情報を共有し、意見交換を行いました。

鳥獣害を軽減するためには、情報を共有した上で問題を整理し、総合的な対策を講じる必要があることから、このような場合は今後も継続して設けていく予定です。



近年主流となっている電気柵

(農業振興普及部)

### ◆林道橋梁点検診断研修会を開催しました！

平成 25 年 12 月 19 日(木)、市町村の担当者 20 人を対象に、林道橋梁点検診断研修会を実施しました。

重要構造物である橋梁は、近年、計画的な点検や維持管理を行うことで、通行の安全確保はもとより、長寿命化による総合的な維持管理コストの縮減を図ることが求められています。今回の研修では、専門技術を有する地質基礎工業株式会社の職員を講師に、通常業務の範囲で実施可能な点検のポイントについて学びました。



施工から44年が経過した信田橋

研修は、二本松市東和地区の沖田橋(林道北戸沢線)、天王橋(林道羽山線)、信田橋(林道植柳線)で行いました。研修のポイントは、使用部材(鋼材、コンクリート)の違いによる劣化の進行予



安達太田川の水は冷たかった！

測、日当たりの違いからくる凍結融解による劣化の差などです。研修に用いた3橋は施工から31～47年が経過しており、現地で経年劣化を直接見る事ができたことで、よりインパクトのある研修となりました。

県北管内には林道だけでも 46 箇所の橋梁があり、今回の研修内容を今後の維持管理に生かしていきたいと考えています。

(森林林業部)

### ◆平成 25 年度 けんぼく6次化ミーティング第1回交流会を開催しました！

去る 12 月 20 日(金)に福島市黒岩の福島県青少年会館において、「思いとこだわりが伝わる6次化商品の創出！」をテーマに県北地方で6次産業化に取り組んでいる農家の方や加工事業者、関係団体など 40 名余りの参加を得て、第1回交流会が開催されました。

福島市を中心に南東北エリアで活動するNP O法人市民公益活動パートナーズの古山郁代表理事から6次化商品の企画に用いるエントリーシ



市民公益活動パートナーズ古山代表理事の講演

ートの活用方法についての講演があり、引き続き県内で地域商品の開発や広告に携わるプランナーやデザイナーをアドバイザーとして、実際に商品開発に取り組んでいる農家や加工会社などから4品の6次化商品へのブラッシュアッププレゼンテーションが行われました。

高級ぶどうを使用した枝付き干しぶどうやりんごと野菜のミックスジュースなど、開発中の6次化商品の試食なども行われ、熱心に意見交換が行われる活発な交流会となりました。

また、風評被害からの復興支援に関心のある3名の学生が福島大学災害ボランティアセンターから参加してくれたこともあり、いつもと違った交流会の雰囲気になったようです。

(企画部)

## ふくしまから はじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動県北地方推進本部の構成員紹介コーナー

(第1回目は、「全国農業協同組合連合会福島県本部(JA 全農福島)福島営農事業所」さんです。)

### ～農業生産基盤の復興と農畜産物の風評被害への取組み～

1. 事業内容・・・県内JAへの補完機能と県全体の生産販売・購買事業に取り組んでいます
2. 担当地域・・・県北地方・相双地方のJAを担当しています。
3. 平成26年度基本方針及び重点実施事項

#### (1)基本方針

- ①元気な産地づくりと地域のくらしへの貢献・・・東日本大震災・原発事故からの再生支援、生産コスト低減の取組み等
- ②国産・県産農畜産物の販売力強化・・・県産農畜産物の風評被害払拭、商品開発・加工・物流・小売強化等

#### (2)重点実施事項

- ①販売価格安定・生産者手取りの向上を実現するため、「生産から消費まで一貫した流通体制」の強化と拡充し、販売を起点とした生産振興の各種支援対策実施
- ②安全な農畜産物生産のため、JAグループ福島としての取組み実践と情報公開
- ③「食と農」を基軸とした県産農畜産物の広報強化と福島ブランドトータル販売強化による風評被害払拭へ取組む
- ④実需者ニーズに対応した、多角的販売(加工業務用・量販店・ギフト・ネット販売) 等への取組み拡大
- ⑤「農業生産コスト低減」のためコスト低減対策への取組み

<全農グループ経営理念>

私たち全農グループは、**生産者と消費者を  
安心で結ぶ懸け橋** になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

#### 【県産青果物の風評被害払拭とPR画像】



市場関係者へのPR(築地市場)



量販店での消費者へのPR(コープmart方木田店)

皆様からの御意見・御要望など様々な情報をお待ちしております。

福島県県北農林事務所 企画部 地域農林企画課

電話 024-535-0382

FAX 024-536-9590

電子メール kikaku.af01@pref.fukushima.lg.jp



ふくしまから  
はじめよう。

## ◆「畑の学校」特集◆

未来を担う子供達が「農業・農村地域の大切さ」、「環境の大切さ」、「食・命の大切さ」について理解を深め、豊かな感性と深い見識を持つことを目指して「田」や「畑」を活用した体験型学習を実施しています。

県北農林事務所管内では、地域の人々、大玉村教育委員会、JAみちのく安達、大玉村役場農政課等の応援をいただきながら、大玉村立大山小学校5年生児童（35名）を対象に実施しています。

平成25年度の実施状況について写真を中心に報告します。

<開校式>平成25年5月8日（水）

・場 所 大玉村立大山小学校、JAみちのく安達「農産物出荷所」

県北農林事務所長あいさつ



畑の学校は、皆さんが苗を植え、肥料をやり、草取りをして作物を収穫するものです。  
農業の大変さ、楽しさを学んでください。

畑の学校長あいさつ



今日から畑の学校を始めます。おいしいサツマイモを収穫します。  
楽しみにしてください。

<さつまいもの苗植え>平成25年5月27日（月）

・場 所 「畑の学校」ほ場



さつまいもの苗が育つように畑を耕耘します。



マルチ掛けを行い、穴をあけてサツマイモの苗を植えます。

<生きもの調査>平成25年7月17日（水）

・場 所 大山小学校教室、「畑の学校」ほ場

農村整備部農地計画課長の説明



農村整備部が独自に作成した資料を児童達に配布しました。

サツマイ畑を探索する児童達



この大きな虫は何といるのかな。  
無視しないで調べてみようね。

<農業総合センター施設見学会>平成25年6月24日(月)

原発事故により福島県産の農産物に放射能の被害が出ましたが、全ての農産物を放射能測定器により測定し、安全が確認された農産物のみを市場に流通させていることを勉強しました。

放射能測定器



1台2,500万円する測定器を利用して放射能を測定しています。

施設の説明



建物の屋根に降った雨水はトイレの洗浄水に利用されています。

<サツマイモの収穫>平成25年10月4日(金)

・場所 「畑の学校」ほ場

天候不良により10月1日に予定していたサツマイモの収穫が順延となりました。児童達は苗植えに始まり雑草をとり、待ちに待ったサツマイモの収穫に大喜びでした。



大きなサツマイモの収穫に御満悦の様子です。



<成果発表会>平成25年12月18日(水)

・場所 大山小学校「体育館」

グループごとの成果発表



サツマイモの収穫体験から学んだ多くのことを発表しました。

グループごとの成果発表



今年収穫したサツマイモは例年より大きなものでした。要因は、今年は雨量が多く、気温も高かったためと思われます。

<閉校式>平成25年12月18日(水)

・場所 大山小学校「体育館」

県北農林事務所長あいさつ



平成26年度も継続して「畑の学校」が開校されます。引き続き勉強してください。

「畑の学校長」からの修了証書授与



苗植え、雑草取り、収穫等、御苦労様でした。「畑の学校」を終了するに当たり修了証書を授与します。

(農村整備部)